

平成 27 年度 第 3 回 横浜市都筑区地区センター及び横浜市つづき緑寿荘指定管理者選定委員会 【議事録】	
日 時	平成 27 年 7 月 27 日 (月) 9 時 15 分～16 時 30 分
開 催 場 所	都筑区総合庁舎 5 階 第 1 会議室
出 席 者	荒田委員、大澤委員、佐藤委員、竹迫委員、名和田委員長
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開 (傍聴者 1 人)
議 題	1 面接審査 2 採点審査 (指定候補者及び次点候補者の決定)
決 定 事 項	第 3 期指定管理者の候補者を次のとおり選定した。 1 北山田地区センター 指定候補者は、特定非営利活動法人つづき区民交流協会とする。 次点候補者は、公益財団法人横浜 YMCA とする。 2 仲町台地区センター 指定候補者は、特定非営利活動法人つづき区民交流協会とする。 次点候補者は、特定非営利活動法人建物管理ネットワークとする。
議 事 等	<p>確認事項</p> <p>1 第 3 回委員会における審議施設及び申請状況について 第 3 回委員会では、北山田地区センター、仲町台地区センターの指定候補者及び次点候補者を選定する。 北山田地区センターは 2 団体、仲町台地区センターは 3 団体の応募があり、全団体が欠格事項には該当しないことを事務局から報告した。</p> <p>2 面接審査の実施について 応募団体による 15 分間のプレゼンテーションの後、15 分間の質疑応答を行うことを確認した。</p> <p>3 議題の進行について 議題 1 (面接審査) 及び議題 2 (採点審査、指定候補者の決定) は、施設ごとに審議するものとし、審議の順番は、北山田地区センター、仲町台地区センターとする。</p> <p>北山田地区センター</p> <p>1 面接審査【公益財団法人横浜 YMCA】 (1) プレゼンテーション (応募団体から説明) (2) 質疑応答 (委 員) 団体として、青少年支援を重視しているように見受けるが、都筑区こども青少年育成計画は知っているか。知っていればそれをどのように考えているか。また、青少年のうち中高生が対象の自主事業が 2 つしかない</p>

いようだが、どのように考えているか。

(応募団体) 都筑区こども青少年育成計画は把握していない。地域に根付いた教育活動機会の提供として、国際理解、平和教育等の事業にも青少年育成の要素が入っていると考えている。地域の中学生を巻き込み、手伝ってもらいながら、自主事業を実施していきたい。

(委員) 館長、副館長にはどのような資質が求められると考えているか。

(応募団体) 館長は、幅広い地域交流に取り組む熱意が必要と考えている。副館長を配置することは提案書に明記していないが、副館長や職員が、館長をサポートすることが大切だと考えている。

(委員) 踊場地区センターではパブリックビューイングが成功したとのことだが、北山田地区センターを運営する上でのキーコンテンツは考えているか。また、北山田地区センターを運営する上で、他の団体と比べて魅力や優れている部分はどのようなところで、北山田の地域性とどのようにマッチングさせようと考えているか。

(応募団体) 北山田地区では20年ほど前にパイロットプログラムを始めた。当時マンションが建設され、新しい世帯が流入しながら地域が形成された。一部では高齢化も進んでいるが、その方たちを元気にするためには、青少年も元気にならなければならない。子育てのお母さんたちとの連携も重要であり、働きながら活動できる支援をしていきたい。青少年育成の取組については、現在はいじめ問題などもあるので、団体内の教育相談センターと相談しながら進めたい。

(委員) 自主事業の計画の中で、新たな視点での展開とあるが、どういう部分が新しいのか、具体的に説明してほしい。

(応募団体) 現在も幅広い視点で自主事業を展開していると思うが、乳児身体重測定や子育ての集いのようなものはなかった。親子の絆を深める事業はあったが、幼児が親から離れて自主性を学ぶような自然活動体験はなかったように思う。また、当団体は国際交流、平和教育も大切にしている。地域とともに平和について一緒に考える企画も考えている。防災の視点を取り入れた事業も計画している。

(委員) 都筑区では、地区センターを地域活動の拠点として考え、地域の方が参画していけるかを重視している。参加するだけでなく、参画してもらうためには、どのようなプロセスが必要と考えているか。また、参画を促すための戦略は考えているか。

(応募団体) 運営の基本方針でもある「小さな拠点」がその意味を含めている。サークル活動だけでなく、地域の団体とつながって、それぞれ得意なものを必要な時に活かせるようにしたい。また、日常でのつながりがなければ災害時等にも連携することはできない。協働プログラムを実施することでつながり、団体を育てていきたい。

(委員) 地区センターから地域に出向いていくとあったが、具体的には何をするのか。

(応募団体) 団体の拠点が40あり、それぞれの地域で防犯パトロールなど日常的なつながりがある。その中で、地域で核となる方との出会いがある。障害者支援コンサートもそうだが、地域の活動に積極的に参加することが第一だと考えている。来館者にも声をかけ、具体的な取組につなげていきたい。

(委員) ごみ箱の設置が提案されているが、公共施設では、ごみは持ち帰ることを基本としている中で、なぜごみ箱を設置するのか。ごみが増えてしまわないか。また事業系ごみとして分別しなおす手間がかかると思われるがどのように考えているか。

(応募団体) ごみはどこで捨てるかの問題であって、地区センターにごみ箱を設置したからといって、ごみの総量が増加するものではないと考えている。横浜3R夢の取組を利用者、地域の方々と一緒に考えていきたい。踊場地区センターでは実際にごみ箱を設置しており、アンケートを実施したところ分別に関する理解が深まっていることがわかった。名称として、ごみ箱ではなく、横浜3R夢ボックスという名称にすれば良かったと思う。

2 面接審査【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】

(1) プレゼンテーション (応募団体から説明)

(2) 質疑応答

(委員) 現状の運営について、稼働率は上がっているが、利用者数はそれほど伸びていない。利用団体1団体あたりの人数が減っているということか。

(応募団体) 1団体あたりの人数が減っているわけではないと思うが、小学生利用者は減少傾向にある。全体でも年度により増減はある。

(委員) スマイルコレクションはメインの事業になっていると思うが、参加者は、利用者数にはカウントしているのか。

(応募団体) 北山田地区センターの呼びかけで参加した方のみ利用者にカウントしている。

(委員) 提案されているケアプラザとのコラボは魅力的である。既に調整は進めているのか。進めているならば、ケアプラザのコーディネーターと地区センターのスタッフとのコミュニケーションはどうか。

(応募団体) 地域に着目するという点では、地区センターもケアプラザも同じ方向を向いている。お互いに地域で活動を広めようと考え、同じ立場で話を進めている。

(委員) 自主事業の大学院生とのコラボはどのような縁があるのか。地域的必

然性はあるか。

(応募団体) 慶応大学や東京工業大学の方とは前から科学講座などをしてもらっていた。一橋大学の方ともつながりができ、講座を地区センターでやりたいという話から始まった。地域的必然性はない。

(委員) 源氏物語を学ぶ講座は魅力を感じたが、どういった内容なのか。

(応募団体) 講師の方が非常に魅力的で、源氏物語を現代社会に置き換えて話を展開してくれる。参加者からも非常に好評で、続けてほしいと要望があった。

(委員) 自主事業には魅力を感じる。ただ、地域の方もより参画してほしいと思うが、地区センターとしては、参画してくれる地域の方を発掘している段階なのか。また、今後5年間で地域住民の参画を促す戦略は考えているか。

(応募団体) 参画の促進については、現在、進行途中と考えている。発掘しつつ、実践して人を集めている。発掘と実践を同時に行うために、少しでも良いと思うことは積極的に試行している。将来的には、地域のステークホルダーと一緒にまちづくり戦略を考えていきたい。活動のキーポイントとなるように、地域に見える活動として北山田駅前広場でのイベントで参加者の交流、参画を目指したい。

(委員) 地域、商店街と関連付けた事業も多いが、すべて実現できると考えているか。

(応募団体) 5か年の計画というよりも、3か年で一定の目途を立てたいと考えている。まちづくりの戦略についても2年後には、定期的な集まりを開催できるようにしたい。

(委員) ポップコーン機などの備品の貸出を行っているようだが、誰にでも貸し出すのか。

(応募団体) 主に地域活動団体に貸し出している。

(委員) 日曜日、祝日の開館時間の延長は考えていないのか。

(応募団体) 第2期応募時に提案していたが、区と協議した結果、稼働率があまり上昇しないことが見込まれ、経費の面から実現しなかった。

3 指定候補者及び次点候補者の選定

特定非営利活動法人つづき区民交流協会を指定候補者とする。(585/800点)

公益財団法人横浜 YMCA を次点候補者とする。(498/800点)

4 講評(面接順)

【公益財団法人横浜 YMCA】

・国際的な視点や防災の考え方、他区地区センターの管理実績など、団体としての魅力やポテンシャルは信頼できる。また、日曜日、祝日の開館時間

の延長など細やかなサービスの提供についても期待できる。

・基本的な能力、安定性は評価できるものの、団体としての強みを北山田地区センター、北山田地域でどのように活かしていけるかという具体的な構想が見えず、残念であった。都筑区こども青少年育成計画や北山田地域の特長を踏まえて、国際性や青少年育成などの団体の強みを活かす具体的なアプローチがあればより良い。

【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】

・自主事業の提案は多岐に渡り、魅力的な内容が多く、特に北山田駅前広場を地域の拠点に位置付け、地域を活性化させたいという地区センター内に留まらない積極的な姿勢は高く評価できる。的確な地域分析に基づいた5年間の事業計画は、「見てみたい」と思わせる魅力があった。

・充実した提案に対して、スタッフの育成については、現状の研修だけでは不安が残る。また、利用者の増加に向けた取組や基本的なサービス面では、工夫の余地を感じた。

仲町台地区センター

1 面接審査【スターツファシリティサービス株式会社】

(1) プレゼンテーション（応募団体から説明）

(2) 質疑応答

(委 員) 市の施策を理解して運営するとあったが、横浜市のコミュニティ政策で特に興味のあるものは何か。

(応募団体) 子育て支援が積極的だと思う。

(委 員) 子育て支援の具体的な取組としては、何かあるか。地域福祉保健計画は知っているか。

(応募団体) 把握していない。

(委 員) 企業として、指定管理者制度施設を管理するにあたって、収益はどのように見込んでいるのか。

(応募団体) 本部の事務経費程度を収益として見込んでいる。事務経費の中に計上している。

(委 員) 他にも地区センターがある中でなぜ仲町台地区センターに応募するのか。

(応募団体) 弊社が横浜に最初に進出してきたのが、都筑区、神奈川区のエリア。地域密着という考え方を重視して活動しているので、弊社が建設、維持管理する建物などが多いエリアでは、横のつながりも創出できる。

(委 員) 土地勘があるということだが、仲町台の地域特性はどのように考えているか。子どもに関する提案が多いが、子どもへのアプローチが重要な地域と考えているのか。

(応募団体) 高齢者の方が多いということも把握している。子どもから高齢者までをターゲットには考えているが、次世代の育成ということを見ると、子どもがふれあう場として、地区センターをうまく利用できればと考えている。近年、高齢者も SNS を活用している。そうしたコンテンツを活用して、双方向の発信ができれば、ニーズもうまく取り込んでいけると考えている。

(委員) 増収については、大きな見込みをしていると思うが、指定管理料を削減することができるのか。

(応募団体) 指定管理料は年々削減していくつもりである。自主事業については実費相当で考えている。講師派遣などを現行とは異なる方法で行えば経費を抑えられると考えている。

(委員) プレゼンテーションの中で、「利用者様」という言葉があったが、地区センターを活用する地域住民について、どのように考えているかももう一度説明してほしい。

(応募団体) 表現としては適切ではなかったかもしれないが、一緒に地域を盛り上げていきたいと考えている。

(委員) 利用者は確かにお客様ではあるが、地区センターにおいては、協働のパートナーという面もある。その点について、具体的にどう考えているか。緊急時やイベント時などに本社スタッフが支援するとあるが、困ったときは本社スタッフが人材を補てんするということか。こういう場面こそ、地域住民の方と日頃から信頼関係を作り、一緒に運営していくことが大切なのではないか。

(応募団体) 地域密着で地域と共に運営していくという軸はしっかりとある。基本的には施設が主体となり運営する。本社も運営に関わるという意味。

(委員) 個人情報の方が一漏えいした場合の対応マニュアルも準備されているとあるが、実際にはどのような対応となるのか。

(応募団体) 具体的にはお示しできないが、すぐに役員、行政に報告し、即時対応をとる。

(委員) サービス向上策で、英文・中文の HP 作成や、館内表示言語も英語・中国語・韓国語のものを作成するとあるが、仲町台には独逸学園もあるが、ドイツ語はないのか。一般的にこの言語で作成するということか。地域特性は考えないのか。

(応募団体) 現状、ドイツ語は検討していない。横浜市のデータを見ると、中国、韓国の方の分布が多かった。

(委員) 自主事業について、平成 28 年度は前年事業の継続をするということだが、前年踏襲では、具体的にどのように考えているのか見えてこない。無料塾については、自主事業計画書には記載がないが、7 月から実施するということなので、貧困家庭をどのように抽出するのかなど具体的な

実施計画を説明してほしい。

(応募団体) 福祉保健課と相談、調整していきたい。金銭的な理由で諦めてしまっている方々にスポーツなどの体験の場を設けたい。生活保護の対象者などを福祉保健課から提供してもらい、対象者を考えたい。

(委員) 行政が指定管理者に生活保護のリストを提供してくれると考えているということか。

(応募団体) そこは調整になると思うが、対象者を選定し、他の人にはわからない形で、優待券などを発行する。

(委員) 館長、副館長に必要な資質はどのように考えているか。

(応募団体) 館長は全体を客観的に把握でき、コミュニケーション能力に長けている人。副館長は、自主事業と施設の維持管理を担当する2名を考えている。

2 面接審査【特定非営利活動法人建物管理ネットワーク】

(1) プレゼンテーション (応募団体から説明)

(2) 質疑応答

(委員) 都筑区の地域性に関するリサーチが抽象的に感じるが、地域会議への出席は、具体的にどのような場を想定しているか。仲町台地区センターのエリアでどのような会議があり、その会議で働きかけることでどのような効果があると考えているか。

(応募団体) 都筑区で実際にどのような会議があるかは考えていなかった。他区で管理している施設では、自治会町内会の会合やケアプラザの会議などに出席している。

(委員) 地域福祉保健計画や都筑区こども青少年育成計画は知っているか。

(応募団体) 把握していない。学校との連携は考えている。

(委員) 中高生のアフター5とは、どのような事業か。

(応募団体) 白山地区センターや藤が丘地区センターで実施しているもので、体育室でスポーツを紹介したり、料理室でお菓子作りなどを行っている。

(委員) コーディネーターを配置する提案となっているが、自主事業計画では、コミュニティスタッフがコーディネーターとなると記載されている。コーディネーターをコミュニティスタッフがサポートするということか。

(応募団体) 組織図のコーディネーターは、スタッフのリーダーという位置づけで、自主事業のコーディネーターとは異なる。自主事業のコーディネーターはコミュニティスタッフが担う。

(委員) コミュニティスタッフが自主事業のコーディネーターとなるうえで、どのように人材育成を行おうと考えているか。

(応募団体) コーディネーターとしての役割は幅広い。公の施設では、その施設の

ことだけではなく、区役所のことや地域のことなど様々なことを質問されることが多い。そうした質問にスタッフが答えられるよう日頃の研修、ミーティングで育成していきたい。

(委員) コーディネーターというよりもコンシェルジュのような位置づけか。自主事業計画に記載されている「地域共創型」自主事業をコーディネートするために、スタッフはどのように育成するのか。

(応募団体) 例えば、農業体験の事業などは、農家の方と一緒に体験してから、講座のお手伝いをするなどを考えている。

(委員) 具体的なコーディネートのイメージを説明してほしい。積極的に働きかけなければ、参画や交流は生まれない。その働きかけがコーディネートだと思うが、他の施設で実績はないか。

(応募団体) 健康体操などは、初めは知らない人同士だが、自然と交流が生まれる。

(委員) 一部で交流やグループができるかもしれないが、横のつながりはどのように作るのか。

(応募団体) 参加したいと思った人が当日でも参加できるような開かれた自主事業を考えている。また、「仲町台コーヒブレイク」の事業で、ロビーにいる方々に声をかけ、交流できる場を創出していきたい。

3 面接審査【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】

(1) プレゼンテーション (応募団体から説明)

(2) 質疑応答

(委員) 早渕中学校区との連携について、どのような経緯で連携に至ったのか。

(応募団体) 小中高校によるジョイントコンサートが仲町台地区センターで実施され、区役所から補助金も出たことから、うまく発展した。コンサートの総会も開かれ、学校関係者と地域の課題などを話し合うことができた。そうした経緯で、早渕中学校区とは関係が深まっている。

(委員) 意欲的な自主事業が多い一方で、館長などの負担は大きくならないか。分担などはどのようにしているのか。

(応募団体) 館長自身に取り組む事業もあるが、企画担当の副館長を中心に、経理等担当の副館長も協力して事業を実施している。また、利用者団体の企画を募集しているので、利用者が主体となって企画してくれる事業もある。団体との協力や連携による事業でも、通常の自主事業よりは負担が少なくなり、助けてもらっている。

(委員) パワーヨガの自主事業はかなり人気があるようだが、成功の要因は何か。また、その他にも成功したコンテンツはあるか。

(応募団体) パワーヨガは抽選になるほどの人気事業で、その要因は参加費が安価なことだと思う。一般のヨガ教室に比べると非常に安価である。健康体操も地域からのニーズが高い事業の一つ。

(委員) 仲町台地区センターが地域と深く連携しだすようになったきっかけは、地域防災講座のようだが、発端はどこからか。

(応募団体) 新栄高校の校長先生と仲町台地区センターの隣にあるサカタのタネ。震災の後、校長先生が色々なところを回り震災のことを聞いて回り、地区センターに相談に来られた。その年度に区役所からそうした活動に補助金が出ることを知り、まずは実態のアンケートから始め、情報交換会など交流を深めてきた。

(委員) 現在、防災講座などの取組で地域との連携も深まっているようだが、今後5年間の地域連携の戦略は考えているか。

(応募団体) 一つは、防災講座のように、地区センターがハブになり、地域のそれぞれの方面で連携が生まれるようにすること。また、今検討しているのは、大人の学級「見守りたい」という取組。現在、バドミントンや卓球のラケットを壊してしまったりする子どもが増えており、見守り活動をしてくれる地域のボランティアの方と結びつけて、地域連携をしていきたい。今後は、常に地区センターが中心となるのではなく、地域の力を活用して、地区センターを助けてもらえるように運営していきたい。区役所とのすり合わせも必要になると思うが。

(委員) 日曜日、祝日の開館時間延長は考えていないか。夏は夕方明るく、日曜日の16時台の利用率はどうか。

(応募団体) 17時で閉館となるので、16時30分で利用は終了となる。光熱水費や人件費等を考えると、現状では厳しい。

(委員) 区内の地区センター4館の関係性は、どのようなものか。互いに地域連携の面などで意識し合っているのか。

(応募団体) それぞれの地区センターで地域特性を考えて取り組んでいると思う。現状だと、都筑地区センターのみ横浜市社会福祉協議会が管理しているが、研究してみると勉強になることも多い。

4 指定候補者及び次点候補者の選定

特定非営利活動法人つづき区民交流協会を指定候補者とする。(574/800点)

特定非営利活動法人建物管理ネットワークを次点候補者とする。(504/800点)

5 講評

【スターツファシリティサービス株式会社】

・事業計画書全体を通して誤記載が多く、本業務に対する意欲が低い印象を受けた。地区センターの管理運営を通じて、何をしたいのかが具体的に見えてこなかった。

・無料塾やその他自主事業の提案など、具体性が不足しており、実現性に疑問を感じた。横浜市や都筑区の政策や地域分析を十分に行ったうえで、地区セン

	<p>ターで何ができるのかを具体的に検討してほしい。</p> <p>【特定非営利活動法人建物管理ネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物管理のノウハウや利用者ニーズに答えていこうという姿勢は評価できる。他区で管理している地区センターの実績からも、建物の管理面だけでなく、地域交流の視点を持って運営している印象を受けた。 ・どのような地区センターになるのか見てみたいという期待はあるが、地区センターのコーディネーターとしての役割について、明確な答えが出てこなかった。実際に地区センターで地域の方と接している現場スタッフの説明が聞きたかった。 <p>【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域分析が的確で、分析の内容が自主事業の計画に落とし込まれており、魅力的である。自主事業を実施する上でも、連携先がよく見えている印象を受ける。運営の姿勢についても、常に地区センターが中心ではなく、時に地域から助けてもらうという考え方は、参画を促す地域活動拠点の役割を果たすうえで、非常に大切なことである。 ・今後の5年間の計画は、壮大なイメージではなく、具体的な計画ができており、現指定管理者として培ったノウハウや地域との関係性をうまく計画に反映させており、信頼できる計画となっている。
そ の 他	